

国際ハイウェイ建設の 促進に期待

国際ハイウェイ建設事業団

中国ハイウェイ調査特別委員会委員長 谷藤 正三氏*



世界の情勢はイデオロギー闘争の時代も終わり、ヨーロッパ統合の前進を先頭に国境なき新しい幸福な社会の建設に向かって世界の人々が力を合わせていくであろうと期待しておったにもかかわらず、中近東においては温和を旨とする羊が迷える羊となり、豊かで言語、慣習を同じくする隣人同士の国でありながら、話せばわかるべきことがかえって禍いして紛争となり、世界中の国々を巻き込んで今や民族闘争と宗教闘争とに転化されてしまった。世界の人々の平和への指向とは裏腹に恐れ多くも神の名において共に祈りながらも平和への話し合いもできなかったことは誠に悲しむべきことである。

われわれの住む東南アジアにも類似した事象は至るところに潜在しており一触即発の態勢にあるともいえる。しかもアジア諸国においては政治・経済・文化・社会など環境条件に非常に格差があるだけに、一旦問題が発生すれば、平和かつ冷静な判断を期待することは極めて困難になるだろうと思われる。だからと言って手を拱いて傍観することは、われわれ日韓両国民には許されるべきことではない。

グローバルな地球社会において、21世紀における幸福な隣人社会関係を築き上げるためには、各国民が正確な世界情報を確保できて、それが正しい論理哲学の下に判断できるようなシステムを少しでも早く構成してやる必要があると思われる。それには近代科学の先端をいく衛星通信システム網も極めて有効な方法であるが、アジアの全国民に徹底させるにはまだ経済的に無理があろう。現時点においては情報伝播・経済誘発・人的流動等が面的に拡播することができ、経済統合指向にも沿うものとしては、ECが現実を示してくれたように高速自動車道網の完成であろう。

文鮮明師が唱導する国際ハイウェイの建設はこの意味において重要な意義をもつものである。しかも本事業の要をなすものは“日韓トンネル”の完成であることは当然といえる。現在の進捗状況で進めば、21世紀初頭には世紀の大事業となることであろう。

幸いにも日本の大プロジェクトである青函トンネルは既に完成し、本四架橋・東京湾横断橋も21世紀初頭にはあらかし完了期にあるので、これらの巨大プロジェクトの熟練技術者を全面的に投入できる時期になっているはずである。東京・伊勢・大阪・豊後水道等の湾口連絡事業は余力をもって十分できることであろうから、アジアの経済統合のためには日韓トンネルは最重要事業となることは当然と思われる。

その間われわれの委員会は、北京・丹東から事業を進め、北京-天津・旅大-瀋陽の二高速自動車道と共に、環渤海湾経済圏・環日本海経済圏の熟成進捗度に合わせながら、北京からは南下して東南アジアへ、シルクロードを逆流してヨーロッパへ、瀋陽から北上して沿海州へと国境を越え、民族を超えて世界経済の統合に向かって人類の幸福を追求していくつもりであります。日韓トンネル研究会が益々の研鑽を積み、日韓両国から積極的な協力も得られて躍進発展せられる日の一日も早くなりますように心から祈っておる次第です。

*元北海道開発庁事務次官、国土政策研究会会長